

Vories
cure&care



ヴォーリス
だより

発行 毎月 1日
発行者
ヴォーリス記念病院
三ッ浪 健一
近江八幡市北之庄町492
TEL (0748) 32-5211
印刷
(有) 東呉竹堂 (ひがし印刷)

病院ホームページアドレス
http://www.vories.or.jp/

2017年(平成29年)12月1日 第126号

ヴォーリスホスピスが取り組むいのちのケア



ホスピス医部長 細井 順

ホスピスカアを語る時、第一に考えていることは、「人間は死すべきもの」という事実である。これを足がかりに、死とどのように向き合うかを問うことがホスピスの在り方である。人間には老いと死が備えられている。「人間の尊厳や存在意義が、個々の人間の老いと死による有限性にある」と、ある生物学者は語っている。

多死時代を迎えようとしている。2025年問題と呼ばれ、団塊の世代が平均寿命を迎える時期に、死亡者数の増加に見合う死亡場所が確保できないという難問を現代社会は抱えている。病院の病床数を増やすことはむづかしく、在宅で死を看取ることが推進されているが、市民の間にも医療者側にもまだまだ浸透していない。そういう背景の中で、ホスピスは尊厳のある死の看取りを目指している。

患者が望むことはどのようなことであろうか。がんなどの生命を脅かすような病気を患うと、全人的苦痛とよばれる「生きづらさ」を感じる。現代医療の盲点は、患者の情報を一元化して管理する場所がはっきりしないことにある。専門化・細分化が進んだ医療システムでは、検査、診断、治療と多人数の医療者が関わっている。ひとりの医師が患者のすべてを診る時代ではなくなった。医療の進歩によって、専門領域は狭められ、広い範囲を診てくれる医師はいない。特にがん治療のような高度の専門性が必要とされる領域では尚更である。このようなシステムでは、患者が抱えた生きづらさを汲み取ることができない。

患者の願いは、医療者による人格的な癒やし、人間的な対話である。たとえ障害や病気が除去されることがなくても、葛藤が解決されることである。現代の高度先進医療では、これらの願いを聞き入れる余地がない。ホスピスで出会う患者から漏れる言葉は、「誰が主治医かわからない」。それに答えるホスピス医は、「最後までちゃんと診るから」。すると、「安心した。その一言が欲しかった」と患者は安堵する。

ホスピスが大切にしていることは、人生の流れの中で現在を見つめ直すことであり、患者の気持ちに焦点をあてて、つらさ、せつなさ、やるせなさ、やりきれなさ、できなさ、弱さにつき合うことである。ライフレビューという手法を使って、自らの人生の歩みを自らの口で語り、自らの心に現在の状況を落とし込む作業をしてもらう。そうすることで、これからの旅路も過去を乗り切ってきた経験の中から困難に立ち向かっていける。

ホスピスですごく患者のほんとのつらさは何であろうか。「生きたいけれど、生きられない」ということと、「死にたいけれど、死ねない」という二項に集約される。生死の狭間で、できなさ、弱さを覚える。このような苦悩に対して、ホスピススタッフは患者の希望に寄り添うことができるのだろうか。「生かしたいけれど、生かせられない」であり、「死なせたいけれど、死なせられない」のである。大きなジレンマを抱えながら患者の傍らへと赴く。医療者として赴くならば、患者に寄り添うことはできない。医療者としては無力である。できなさ、弱さを思い知らされる。

「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとに来なさい。あなたがたを休ませてあげよう」。これはホスピスの玄関に掲げられた聖書の言葉である。この言葉は、患者や家族に投げかけられた言葉ではなくて、ホスピススタッフにも投げかけられている。できなさ、弱さを抱えた者全員に投げかけられている。我々人間は神の前では平等である。医療者としてではなく、できない者、弱い者同士の出会いの中で患者に向かう時、その場には立場の違いを超えて、愛、平和、つながり、いのちが生まれる。ここで生まれたいのちは生死を超えて遺された人の生きていく力になっていく。遺された人の中で生き続けるのである。

ホスピスカアはいのちを育てている。このいのちに気づく時、死の孤独から解放され、死を恐れなくて死に向き合うことができる。人はひとりでは生きること、死ぬこともできないものなのだ。

私事になりますが、本年12月末で退職することになりました。これまで皆様方にお引き立ていただきましたことに厚く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

☆インフルエンザを予防するために☆

1. 予防注射をしましょう。
2. うがい・手洗いはこまめに。
3. 外出するときは、マスクを着用しましょう。

院内感染対策委員会

今
月
の
聖
句

「どうか、御心に留めてください」

旧約聖書 詩編 74篇2節



チャプレン 安部 勉

12月、イエス様の誕生を覚えるクリスマスを迎えます。聖書ではイエス様は「飼い葉桶に寝かせた」とあります。飼い葉桶とは家畜の餌の器。つまり今で言えば納屋かガレージでお生まれになった、と。なぜなら「宿屋には彼らの泊る場所がなかったからである」とあります。

華やかな喜びに包まれる季節。でも聖書は寂しく、切ないところに「救い主」はお生まれになったと描きます。

今月の聖句はイエス様の生まれる遙か昔、ユダヤの民が神との出会いの場である「神殿」が外敵によって破壊されたことを神に嘆く歌の一節です。

作者は外敵の前に破壊された神殿や都市をみて嘆き、神に訴えました。「どうしてこんなことを許すのですか」と。神は共にいて、私たち

を守ると信じている人々にとってこの現実は何への信頼が揺らぐものでした。

しかし、作者は悲嘆の中であって「どうか、虐げられた人が再び辱められることなく、貧しい人が、乏しい人が、御名を賛美しますように」と祈るのです。

繰り返す戦乱、それは今も変わりません。救い主の誕生は繰り返される人々の怒りや憎しみの連鎖の中に神は「共にいる」とイエス様を遣わしました。

神は「私たちと共にいる」。

「共にいる」しるしは見える神殿や誇らしげな富や勝利ではなく、悲しみや寂しさが慰められ、こころ暖まる中にあります。思い出に残るクリスマスを迎えられますように。



ヘルシークッキング 12月



焼き芋

「さつまいも」

エネルギー330kcal タンパク3質 脂質0.5g (1人分)

<材料>

- ・さつまいも1本 (Mサイズ)

(作り方)

- ①さつまいもを皮ごと濡らす。
- ②キッチンペーパーを巻き付け更に濡らす。
- ③アルミホイルでくるむ。
- ④オーブン180℃で60分。
- ⑤適度に冷めるまでオーブンの中で放置。



秋から冬にかけて甘味が強く和・洋・中を問わず色々な料理に使われる「さつまいも」。甘味が強く、間食や主食の代用のイメージが強いさつまいもですが、栄養面も優れた一面を持ちます。今回はこんなさつまいもの特長について紹介させていただきます。

さつまいもの栄養素で特に優れているポイントは、ビタミンCの豊富さです。ビタミンCの含有量は29mg/100gと、果物の温州みかんの35mg/100g並みの高さです。しかも、加熱しても損失が少ないことも特長の一つです。

ここでおすすめしたいさつまいもの食べ方が「石焼き芋」です。甘くホクホクとした暖かさは寒い冬場にはたまりませんね。さつまいもの定番とも言える石焼きいもですが、この調理法は、さつまいもの栄養素を無駄にすること無く美味しく食べるために、とても理にかなった

方法となっています。まず、栄養面では切ること無く、皮ごと石焼きにすることで、さつまいも中のビタミンCは皮とデンプン質に守られて空気に触れないため損失が非常に少なくなります。更に、さつまいもの皮にはカルシウムが含まれているため、これも無駄にせず摂ることができます。また、さつまいもの甘味はアミラーゼという酵素が働き、糖化が進むことで増すのですが、このアミラーゼを働かせるには、60℃付近でゆっくり加熱する必要があります。この条件にピッタリな方法が「石焼き」です。

非常にシンプルな「石焼きいも」ですが、さつまいもの特長を活かした調理方法と言えるでしょう。ご家庭で石焼きは難しいですが、代用としてオーブンで焼く方法を今回は紹介させていただきました。寒い冬を乗りきるための栄養補給としてお試し頂くのはどうでしょうか？

つら

ヴォーリス記念病院 創立100周年に向けて

当院は今から99年前の5月、「近江療養院」という結核療養所として開設しました。来年で100周年を迎えます。近江八幡の地で100年という月日、地域の皆さんに基督教の理念に基づき医療や介護、福祉の働きを担って来ました。来年の100周年に向けてこのコーナーでは病院に関連するトピックをご紹介します。

第9回

当院の事務長として、また理事を勤められた木村隆一氏が「病院の三十年」という題名でご自身の病院での働き、そして当院の歴史について貴重な資料を著書として残してくださいました。

その中に「時局の回顧」というタイトルで昭和28年5月に当時の院長である栗本先生の記した「35年の小史瞥見」を引用されています。栗本先生は戦時中を以下のように総括しました。

「昭和16年の大東亜開戦から20年の終戦までの4年間は、何もかも空白の時代で従来の理想とするものに、ほど遠かった」と。

また昭和17年3月に発行された「湖畔の声」同月号に国民医療法案によって設立される「日本医療団」に当院（近江療養院）が接収されるのではないかと不安を以下のように記されています。

「ただ、それにしても＜国民の健康増大を計る法案について賛同しつつも＞日本医療団の性格なりという形で接収され、接収された後の経営はどんなに変わるか、それに関して今にわかにはその総てに亘り政府当局の方針を揣摩憶測することは避けたいと思います。統合されるかとかされないとかの問題で

チャプレン 安部 勉

はありません。我らはただ一段の努力を捧げ、結核の予防撲滅に向い人的資源の保護育成の立場から医療保護社会事業の本年の使命遂行のために全機能を挙げて邁進すべきであります。」

空白の4年間、その中であってなお、設立理念と社会の状況を受け止めつつ使命を果たすことのために尽力されていた一旦が伺えます。

なお、昭和17年、高松宮殿下が来訪されヴォーリスはじめ当時の近江兄弟社理事が歓待したことが記されています。また近江兄弟社は「御下賜金」を受け、後に新病棟建設の資金として用いられました。



1956年（昭和31年）以降に撮影

被害妄想や物盗られ妄想について 紹介

内科 医師 穠山 勝久

昨年3月4日の朝日新聞・天声人語に、認知症の人はなぜ「自分の世界」を創造するのか？自分と現実の世界とのつながりがぎれてしまうという不安に耐えられないからだ。だから不安を鎮めなければならない。（看護学者・阿保順子氏、大井玄医師）と引用されていたので大井氏の著書「病から詩がうまれる」を取り寄せました。著書の中で石橋典子氏が「お年寄りの『意味の世界』に入って行って、愉しく安らかで笑える世界を築く作業に加わっている」と書いてありました。

石橋氏の著書を読んで思ったことは、認知症の患者さんの被害妄想では、自分自身の『存在の意味』が分からなくなっておられる方々がしばしばおられる、ということです。そしてご自分の『存在の意味』を再び見出せるように支えていくと、たとえば『誰かが財布を盗った』などの妄想に、こだわらなくなられる方もあるようです。

「存在の意味」とは、「尊厳」とも言えるのではないのでしょうか。

聖書には、主は私たちに存在の意味を与えてくださいます、と教えてくれます。

私の目には、あなたは高価で尊い。

わたしはあなたを愛している。

だからわたしは人をあなたの代わりにし……イザヤ書43章4節」

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。ヨハネの福音書3章16節」

なお、医学的にみて認知症の諸症状に、「脱抑制」というものがあります。高次脳機能障害の方々にも見られることがあります。高次脳機能障害の方々は感情失禁や気分障害とは異なります。被害妄想や物盗られ妄想とも少し関係しているのかもしれませんが。

急病で突然入院すると、このような妄想も悪化することがあります。病状的に可能であれば、外泊などの環境調整により、情緒安定・不安軽減を図ります。なお状況によっては本人を守るためにも向精神薬の使用などを考慮することもあります。

健康の為に気をつけていること

2病棟 中島友香

私が健康の為に気をつけていることは“よく笑うこと”です。

笑うことで、幸福感を感じることが出来るので、ストレスの発散につながり、体調を整える為に1番大切なことだと私は思います。

また笑顔でいることで、周りに居る人にも笑顔が生

まれ、周りの人も幸せに出来ると思います。穏やかな気持ちや楽しい気持ちでいることが、健康であるための第1歩だと私は思います。だから、たくさん笑って健康でいられるよう、これからも努力していきたいと思っています。



報告1

第24回初期消火競技会

1病棟 小山瑞樹・原田理加

今回第24回初期消火競技会に参加させて頂き、病院内で火災が起きたとき自分たちがどう行動したらいいのか、初期消火まで短時間で動く大切さや役割分担など実際の火災を想定した対応を学ぶことができました。

看護師だけでなく、他職種のスタッフと共に練習し大会に出場させて頂き、他職種との交流の場ともなりました。

消防競技大会に参加するにあたり、業務後の練習を行うため、増田師長を始め病棟のスタッフの皆さんが勤務調整をして下さり、「大会頑張って」と優しい声をかけて頂き、とても優しい病棟であることを再度実感させて頂きました。また、消防の指導や消防署との時間調整を行って下さった管理課の中西係長、時間を割いて消防署での練習をさせて頂いた消防士の皆さん

の協力のおかげです。多くの方の協力で、貴重な学ぶ機会を頂くことができました。ありがとうございました。この経験を忘れず、今後も業務を行っていきたいと思いました。



報告2

A C H A 参加報告

チャプレン 安部 勉

さる11月9日から11日、シティプラザ大阪を会場に「第22回アジアキリスト教病院協会総会」が開催されました。

当院も昨年、台湾で開催された総会よりメンバーを派遣しています。今年の総会テーマは「The identity and mission of the Christian hospital in today's world」と題し、韓国、台湾、タイ、アルメニアそして日本より120名以上の医療関係者が参加しました。

大会では「キリスト教病院であることの使命」「伝道」について各国の病院の取り組みが紹介されました。

アジアの社会、文化の中にあって最先端医療に取り

組むキリスト教系の病院もあります。また地域に根をはった病院もあります。各国のいずれの病院の働きもその根底にはキリスト教を伝えていくとの強い使命感を感じました。

各国の病院の設立の背景には皆アメリカなどの外国からの「医療伝道」が始まりでした。そして今、経済的に豊かになりつつあるアジア各国のキリスト教病院は医療状況の厳しい国々へ「医療伝道」に多くの医療関係者を派遣することでその使命を果たそうとしています。

報告3

こもれびの会 開催

さる11月11日、市内グリーンホテルに於いて昨年の秋から今年の春までにホスピスから旅立たれた方のご遺族をお招きして偲び会をもちました。当院ホスピスでは、会の名称を「こもれびの会」として柔らかい日差し指すようなひと時としたいと願いました。

当日は7組9名のご家族が集い、スタッフと共に共に過ごした時を思い起こしつつ、今、皆さまがどのように過ごされているかなど分かち合いました。悲しみや寂しさを覚えつつ、なお、共に思い語らう中に皆さんの優しい笑顔に包まれたひと時でした。



チャプレン 安部 勉



報告4

「ヴォーリスいのちのケア講演会」開催

経営企画室 永 福 喜美江



11月12日（日）14：00から、ヴォーリス学園平和礼拝堂にて、「ヴォーリスいのちのケア講演会」を開催致しました。第一部は、日本よし笛協会常任理事で県内外にて活躍されている、近藤 ゆみ子氏による“よし笛”演奏コンサートと、「ホスピス希望館 10年のあゆみ」のスライド上映。コンサートでは、この講演会のために、秋のシリーズやいのちの歌などを演奏下さいました。当日は晴天で、ステージ後ろの大きな窓から見える真っ青な空と、近江八幡市の緑いっぱいの景色を背景に、“よし笛”の澄ん

だ優しい音色がとても心地よく、幸せなひと時でした。第2部は「ヴォーリスホスピスが取り組むいのちのケア」と題して、当院ホスピス長、細井順医師の講演。先生のホスピスでの想いを、とても優しく、時に熱く語りかけて下さいました。先生のご尽力で建設されたホスピス「希望館」も今年で開設11周年を迎え、そして今年12月、細井先生はヴォーリス記念病院を退職されます。患者に寄り添うホスピスケアの充実と普及に、さらなるご発展とご活躍をお祈り致しております。細井先生、本当にありがとうございました。



報告5

第255回 ミュージックタイム

さる2017年10月28日、「第255回 ミュージックタイム」を3病棟で開催いたしました。今回は「におの会」の皆さまによるコカリナ演奏。演奏だけでなく皆さんとの楽しい交流の場を持ってくださいました。



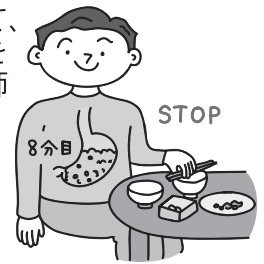


▶ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで月に一度、木曜日に糖尿病、生活習慣病に関して、実際の食事をご用意し、病気の知識や治療法についての教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお尋ねください。

日 時 12月18日(月)12:00~13:30 場 所 新館研修室(病院内)
講 師 医師(岡本医師)

主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申し込みが必要です。



近江八幡市介護予防拠点事業

ヴォーリス介護予防教室のご案内(平成29年度)

開催日程表

回	日 程	内 容	担当・講師
5	2月22日(木) 14:00~16:00	「ひとり暮らしでも 最期まで我が家で」	訪問看護ステーションヴォーリス 在宅看護専門看護師 田村 恵氏

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員：30名
- ②場 所 アンドリュース記念館(旧YMCA会館)
近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
- ③参加費 無料
- ④申し込み 5回目2月20日(火)までに往復ハガキで
①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡先電話を
記入の上、下記の係りまでお申し込み下さい。

〒523-0806 近江八幡市北之庄町492
ヴォーリス記念病院内 介護予防教室係 まで
お問い合わせは、ヴォーリス記念病院内
ホームヘルプステーション
担当 田井中
(Tel 32-7130 Fax 36-5458) まで

患者支援センター

患者様やご家族様に住み慣れた生活の場で、安心して療養し生活を送って頂けるようサポートします!!

- ・健康保険、介護保険等の社会保障制度について
- ・在宅での生活、介護についての不安
- ・施設の入所や利用について
- ・地域の病院・開業医の皆様からの受診・入院依頼...等

お気軽にご相談ください!

TEL (0748) 32-5211 (代)
FAX (0748) 36-5412 (直)
E-mail info@vories.or.jp (代)

※センターは正面玄関入って左側にご覧いただけます。



お知らせ



平成29年度ヴォーリス記念病院「がんセミナー」のご案内 ～テーマ「がんと一緒に生きる」～

- 第1回 2018年1月20日(土)
「がんの治療とともに行われるリハビリテーション・サポーターケア」
滋賀県立総合病院(旧称 滋賀県立成人病センター)
リハビリテーション科 科長 川上 寿一 先生
- 第2回 2018年2月17日(土)
「生活を支える社会資源に関して」～MSW～のはたらき
ヴォーリス記念病院
地域医療課 課長 加藤 和幸
- 第3回 2018年3月17日(土)
「引き継いだいのち」 患者様ご家族 田辺 恵 様

時 間： いずれも午後2時～午後4時
場 所： ケアハウス信愛館(近江八幡市北之庄町492-2)
(当院ホームページのマップをご参照ください。)

定 員： 30名
お申し込み 氏名、住所、電話、参加希望人数を明記のうえ、
メールまたはFAXでお申し込みください。定員に
達した時点で締め切りとさせていただきます。

(申し込み後、メールまたはFAXの返信をもって参加証といたします。
ご持参ください。)

【お問い合わせは】 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院
(がんセミナー担当：安部)
FAX：0748-32-2152
E-mail:vories-reihaidoh@vories.or.jp



健康生活について「出前講座」のご案内 ～ヴォーリス記念病院～

ヴォーリス記念病院では、「地域の皆さまの健康生活に貢献できる病院」の一環として、地域に出向いて『出前講座』を開催しています。
皆さまが知りたい、聞きたいと思われる内容について、当院職員が講師として伺います。ぜひご利用下さい。

- ◆対象：近江八幡市内の地域住民による団体・グループ、学校など
※企業、医療機関及び介護保険施設等の職場研修は実施しておりません。

◆費用：無料です。

◆開催日時：日、祝日を除く、9時から17時まで。

◆申し込み方法：電話により希望日の2か月前までにご相談下さい。

開催が決定したら、正式に申込書をご提出頂きます。

業務の都合によりご希望の日時、講座に添えない場合もあります。予めご了承下さい。



お申込・お問い合わせはこちら >>> TEL:0748-32-5211(代表)
FAX:0748-32-2152

◎ホームページでもご覧になれます。http://www.vories.or.jp/
公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 経営企画室まで